

日本ガス機器検査協会(JIA、東京都港区)は、今年1月に新しい理念「JIAは質の高いサービスの提供を通じて、安全で安心な暮らしの実現に貢献し、いつの時代にも社会に必要とされる存在であり続けます」を制定した。2017年の創立50周年を機に策定し

た「未来ビジョン」の推進、実現に向け、職員が中心となってより身近で分かりやすい内容に改めた。中西英夫理事長に未来ビジョンで掲げるグローバル化、顧客満足強化、新サービス、ブランド強化の四つの柱の取り組み状況などを聞いた。

日本ガス機器検査協会 中西 英夫理事長に聞く



2020年(令和2年) 7月6日 月曜日

発行所 中部経済新聞社 〒450-8561 名古屋市市中村区 名駅4-4-10  
 編集局 052(561)5212  
 読者開拓局 052(561)5216  
 広告部 052(561)5213  
 事業部 052(561)5675  
 総務部 052(561)5215  
 東京支社 03(3572)3601  
 ©中部経済新聞社2020  
 購読のお申し込み 0120-605-123

新しい「理念」と四つの思い制定  
**安全で安心な暮らしに貢献**



「職員が未来ビジョンに向かってより充実した仕事に取り組めるようにしたい」と話す中西理事長

グローバル化や顧客満足など強化  
**未来ビジョン推進**

―理念を改定した。 「従来から底流にある公正中立な第三者認証機関というJIAの役割は変わらなく、表現をよりシンプルに分かりやすくした。未来ビジョン策定以降、職員間の交流も増え、新たな課題に挑戦しようという気運も高

―また、標準化を通じて、中堅、中小企業の優れた技術や製品の国内外での新市場創造などを支援する経済

―「国際マネジメントシステム」の認証では一昨年にISO化された労働安全衛生法、改正食品衛生法のHACCP(ハザップ)の義務化による食品安全関連の高まるニーズに添えていく。環境関連事業では森林認証のFSC、PEFC、SGECCの三つのCOC(認証木材の加工・流通過程)認証の審査をワンストップで実現できる。4月にはサステナビリティ(持続可能性)推進室も新設した

―新たな取り組みは。 「名古屋検査所で行っている製品の電磁的な干渉性と耐性を測定するEMC試験で、ISO/IEC17025の試験所認定の取得準備を進めている。一昨年度は教材をお届けし、全て自宅で学習方式で受講していたことに加え、ISOの審査も3月以降、ほとんどが後ろに延びており、7、8月のスケジュールを調整しながら対応を図りたい」

と「の四つの思いも作成した」

―未来ビジョンの進ちょく状況は。 「グローバル化では昨秋、オーストラリアガス協会と新たにウォーターマーク認証の代行工場調査および代行製品調査の契約を結んだ。給湯器などを日本からオーストラリアに輸出販売する際の認証取得に当たり、製造工場で求められる調査をJIAが代行する。従来はオーストラリアから審査員が来日して実施して

―顧客満足強化は。 「昨年度までに家庭用業務用のガス機器や防災用機器など全ての検査結果のデータ処理をデジタル化

―「ガス機器などの設置、施工に関する各資格講習会は7月から順次再開を進める。感染拡大防止対策を徹底し、1回当たりの参加人数を絞り、回数を増やして対応していく。ガス消費機器設置工事監督者の資格更新の再講習については今年度は教材をお届けし、全て自宅学習方式で受講していたことに加え、ISO

―「また、電気用品安全法に基づく電気用品の適合性検査を行う新サービスの展開も計画している。ガスと電気を両方使う製品を対象に、電気用品の適合性検査をガス機器の検査認証とともにワンストップで行える体制を整備していく」

―「ガス機器などの設置、施工に関する各資格講習会は7月から順次再開を進める。感染拡大防止対策を徹底し、1回当たりの参加人数を絞り、回数を増やして対応していく。ガス消費機器設置工事監督者の資格更新の再講習については今年度は教材をお届けし、全て自宅で学習方式で受講していたことに加え、ISO